

討論

【鄭】 それでは、質問を受け付けたいと思います。

【福岡】 東京大学の福岡です。ご発表ありがとうございました。

エンゲルハートは伝統的キリスト教倫理を打ち出しているということで、そこでは生命倫理は、たんに理論だけでなく、医療実践にも関わってくると思います。現在は当事者の自由・自律を擁護する観点から、代理母や人工妊娠中絶、脳死者からの臓器移植などが認められています。エンゲルハートの立場からすると、現在の医療実践にはどのような変化が生じていくのかということをお聞きしたいと思います。

【池澤】 基本的な構図として、中世の単一的なキリスト教世界に戻っていくということは無理です。エンゲルハートもいろいろな宗教的共同体が併存する多元的な社会であるということは認めております。そのうえで、キリスト教共同体の中では、その生命観にもとづいて、許される技術、許されない技術が決まってくるということになります。具体的には、論文にも書きましたが、生殖補助のほとんどはだめで、胎児の生命にかかわるものもすべてだめ、ただしエンハンスメントはいいようです。

【福岡】 ではなぜそのエンハンスメントは認められるのでしょうか。その理由を教えてくださいませんか。

【池澤】そこはすごく面白いんです。いうまでもなくキリスト教の世界観では、人間は宇宙の中でもユニークな位置を占めます。ですから、人間が自分自身を向上させることは、神に対する奉仕だということなんです。遺伝子の改造についても同じことのようにです。

【フロアー】非常に面白い発表を聞かせていただきまして、いろいろ質問をさせていただきたいところなんですけれども、時間の限りもありますし、ふたつに絞らせていただきます。

エンゲルハートの、たとえばカントに対する批判や、その他あげている問題は、徳倫理学の視点を取り入れるとかなり生産的な議論になるのではないかと思うのですが、エンゲルハートの理論には、徳という言葉が出てくるかどうかを教えてくださいだければと思います。

それから、今エンハンズメントの話題が出ましたが、現代は多様な価値観が併存することを認めざるをえない状況にあって、たとえばある共同体がエンハンズメントを認めるがキリスト教の共同体はそれを認めようとしない、でも認めている共同体に行けばエンハンズメントが受けられるということになれば、お



そらくいろいろな価値観の浸食ということが起こってくると思います。そのことについてエンゲルハートがどういったことを言っているのか教えていただきたいと思います。

【池澤】 まず徳倫理学に関してですが、エンゲルハートはそれほど高い評価はしていないと思います。というのは、今お話しした彼の捉え方は *virtue* にはなるかもしれませんが、徳倫理学は基本的には哲学的・倫理的なものです。彼が言っていることは「神の体験」なんです。その点から言うと、彼の *virtue* に対する評価はそれほど高くないことになるのだらうと思います。

それから第二の点ですが、これはたいへん重要なポイントです。総合討論でも議論したいと思いますが、彼の考え方はとても「閉じている」のです。だから、自分の状態を守ろうということばかりに重点が置かれていて、多様な価値観が併存する中である規範を構築した場合に、おっしゃるようなモラルハザードが起こってくるのではないかとこの配慮はほとんどなされておりません。

【フロアー】 ご回答ありがとうございます。私が言った、エンハンズメントの問題というのは、ごくありふれた、いろいろな人が思いつくような疑問点だと思うのですが、それに対してエンゲルハートはまだ答えを提示しないままであるという理解でよいのでしょうか。

【池澤】 いいえ、エンハンズメント自体に答えを出していないというよりも、エンハンズメントに関してはかなり肯定的な意見を述べているのですが、彼の視点はキリスト教共同体に向けられていて、その中の正義等は考えているのに、もっと一般的な社会的意味での正義や悪等についての言及が少ないということです。

【鄭】 池澤先生ありがとうございました。(拍手)

では次に廖先生、お願いいたします。

【廖】 中山大学の廖欽彬です。どうぞよろしくお願いいたします。